

OLIS 2010 Chinese 講義レポート

7月26日(月)

「生命保険業界の動向」(OLICD Center 常務理事 野口修作氏)

「業界の流れ」として2006年から2009年までの各年のハイライトで重要ポイントを振り返り、「業界の現状」を課題としてまとめ、「業界の展望」で今後の生保業界を予測された。

業界紙の見出しをカテゴリーごとに集計すると、業界の動向をよく反映している。2006年は、不払い問題が最大の事件で、2007年は、消費者の信頼回復のため「消費者サービス」が、急上昇した。2008年は、商品やチャネルの多様化が顕著だったが、これは前年の銀行窓販の全面解禁やかんぽ生命の開業が影響している。2009年には前年のアメリカの金融危機に端を発する「財務強化」や「組織再編」が目立った。

2010年の業界の課題を、「組織力の強化」、「商品の多様性」、「消費者ニーズの変化」、「販売チャネルの再編」、「収益性の強化」の5つのポイントにまとめ、生保各社の対応を類型に分けることができる。

「経営戦略」と「組織形態」の視点から今後の生保業界を予測してみる。市場、販売チャネル、商品という側面から生保マーケットを分析し、それぞれの優位性を生かしたビジネスモデルを構築することができる。第三分野商品は、現時点では、成長性でも収益性でも最高点を与えられる。

参加者から、介護保険の仕組み、医療保険の収益性等について質問があった。